

2020年東京オリンピック・パラリンピック会場計画の再検討の状況等について

- 6月7日（日）～8日（月）に、ローザンヌで開催されたIOC理事会において、組織委員会が大会の準備状況等を報告した。
- 2月のIOC理事会において、次回理事会で報告することとした10競技のうち、8競技の会場計画について了承されるとともに、種目の追加に関する評価項目が示された。

1 今回の理事会において報告し、了承を得た競技会場

(1) 会場について立候補ファイルから変更のない競技 【2競技・2会場】

競 技		会 場
1	水泳	競泳・シンクロナイズドスイミング・ダイビング
		マラソン10km
2	トライアスロン	お台場海浜公園

(2) 会場について立候補ファイルから変更があり、国際競技連盟からの承認を得ている競技会場 【7競技^(※)・5会場】 ※うち1競技（水泳）は上記(1)と重複

競 技	変 更 先	状 況
1 水泳	水球	東京辰巳国際水泳場
2	バドミントン	武蔵野の森総合スポーツ施設
3	フェンシング	幕張メッセ
4	テコンドー	
5	レスリング	
6	ラグビー	東京スタジアム
7	セーリング	江の島ヨットハーバー

※これまでIOC理事会に報告し、了承を得た競技会場については参考資料参照

2 次回のIOC理事会で報告する競技（7月予定） 【2競技】

自転車競技 サッカー

3 種目の追加に関し、IOCが示した評価項目（5つのテーマ及び35の項目）

5つのテーマ及び35の項目のうち主なもの

- ①オリンピックへの提案（種目数、競技形式、競技日数、選手及び役員数、会場等）
- ②オリンピックムーブメントへの付加価値（大会期間中、レガシー、若者）
- ③体制（世界選手権開催実績、NOC加盟団体数、世界選手権参加団体数等）
- ④人気（テレビ取材・中継、デジタルメディア等）
- ⑤ビジネスモデル（予想コスト、対象とする追加収入）